

## 家康没後四百年、今改めて学ぶ 「徳川三百年の基礎を築いた組織と管理」 三

講師 一龍斎貞花

今川の人質家康(当時は松平元康)

は、十五歳の時、今川家一門関口義広の娘、瀬名姫(後の築山殿)と結婚。瀬名の母は今川義元の妹、年齢は、同年、四・五歳上、十歳上と諸説があるが政略結婚。義元の姪とあって人質の家康を下に見る。やがて二人の間に、信康と亀姫出生。

ところが三年後、義元が桶狭間の戦いで信長に討たれるや、家康は岡崎へ逃げ帰り、瀬名姫と二人の子供は人質として駿府に残されてしまった。そして二年後家康は、義元の子氏真を見限り信長と同盟。敵対したのだから人質を殺すところだが、氏真はいとこ同志とあって瀬名を殺せない。家康は人質交換で妻と二人の

子を岡崎へ。しかし信長に遠慮して

今川家一門の瀬名を岡崎城へは入れず、城近くの築山に御殿を築き住ませたとところから築山殿と呼ばれるようになる。

築山にしてみれば、伯父義元の仇討ちどころか、同盟を結ぶなんて許せない。さらに息子の信康と、信長の娘徳姫が九歳同志で結婚。嫁姑の仲、ただでさえむづかしいのに、仇

の娘とあればなおさらのこと。今川家に執着する姑と、飛ぶ鳥を落とす勢いの信長の娘という嫁、うまくいくわけがない、嫁の髪の毛をつかんで引きずり倒したなんて説も。

都を臨む信長にとって武田は強敵、徳川と姻戚関係を結べば、徳川が防

波堤になるので背後が安心になるという政略結婚。

やがて家康が浜松へ進出。正室築

山と、信康・徳姫夫婦は岡崎城へ残され、家康は築山の侍女お方を連れて行き妊娠させます。築山はかんかに怒ってお方を連れ戻すと、真冬の深夜素っ裸にして縛り上げ痛めつけ、そのため双子の一人は死産、助

かって産まれたのが、後に豊臣秀吉の養子になった結城秀康。酷い顔をしていたので家康が嫌ったという説があるが、天下有数の槍の使い手で、関ヶ原合戦の時手柄を立て、越前六七万石の城主になっている。

一方、徳姫は二人の姫を出産、築

山は「男子を産めない女は正室の資格がない」と責め、武田の家臣の娘を信康の側室に致します。

織田・徳川連合軍の敵方の娘を側室というのだから、気の強い徳姫これは黙っていられません。

徳姫は、父信長に手紙を

「夫、信康が武田の娘を側室にし、酒色にふけています」

「姑が、武田家に内通し、織田・徳川を倒そうとしています」

ただちに信長は、家康に対し、「築山と信康が謀反のきざしあり」と殺害を命じます。

徳姫にしてみれば、姑に対する仕

返しからかもしれないが、信康が優れた人物だったので、後年織田に弓を引くようになったら大変と信長がいちゃもんをつけたという説もある。

家康にしてみれば、今、織田と対立したら滅びてしまう、家存続のためには致し方なしと受け入れ、築山を浜松へ呼び寄せ、途中富塚という寂しい谷間で、家康の命で岡本平左衛門と野中三五郎が築山を手にかけた。命令とはいえ主君の正室を殺したため家中の目は冷たく、耐えられず野中は田舎へ引つ込み、岡本は病氣。

切腹を命ぜられた信康は、「武田に味方するなど、全く覚えのなきこと、そのことだけはよくよく父上にお伝え致せ」と言い残し、潔きよく切腹。使者の一人服部半蔵は、介錯の刀をふるえない、それでもう一人の天方通綱が信康の首を刎ねる。その通綱は高野山に隠棲。家康が腹を立てたからとも。主君の命に従ったにもかかわらずです。すまじきものは宮仕え、斬らなかつた半蔵はお構いなし、半蔵は末を読んで斬らなかつたとも。

つたとも。

後年、家康が半蔵に、

「剛の者である其方でも、流石に主人の子の首は討てなかつたか」と。家のために我が子をとはいえ、やっぱり可愛かった。優秀なればなおさらのこと。関ヶ原合戦の折、

「信康がいてくれたら、この年齢でこんな苦労しなくてすむものを」と、家康が嘆げいたという。跡取りの秀忠は、上田城攻めで、真田にほんろうされて足止めを喰い関ヶ原に間に合わなかつただけに、五九歳という年齢で采配をふるわねばならなかつただけになおさらだろう。

家の存続なればこそ

悪女のレットルを貼られた築山だが、徳姫も同様政略結婚は、嫁ぎ先より実家を大切にしている。養子も同じ。信長の妻濃姫は、「イザの時には」と父齋藤道三から短刀を渡されたほど。兄弟の争い、義兄弟となればなおさら。主力争いに家来はど

ちらにつこうかと家を二分する。

我が子を殺してまで家存続を図つた家康。どちらかが勝つて存続出来ると親子兄弟家を二分して戦つた真田、前田、田中、小出家。秀吉は死ぬ時、「若年の秀頼を頼む」と五大老に泣いて頼んだ。時世を読んで、「家康殿が天下を、秀頼には大坂城を」と言っていたら、亡びるにしても豊臣家の後年は違っていたかも。

現在の徳川家も、宗家、十八代恒孝氏は、御三家ならぬ会津松平家の出、名君保料正之の子孫。恒孝氏は、公益財団法人徳川記念財団を設立し、

存続への基礎固めをされている。家柄でなく優秀な人物を後継にしたのです。以前にも書いた

が、大坂の豪商・鴻池善右衛門は、「行跡の悪い後継者は、退任させ他から優秀な人材を。先祖より

受けついで店をつぶすのはいかん」と。倅に継がせなければ帝王教育を行ってください。

アイアコツカは、「クライスラーに従事する社員、家族、そして関連企業の社員家族何十万人が路頭に迷つてアメリカは幸せになれるでしょうか」と言つて議会を動かしクライスラーの存続が認められた。

会社、商店を存続させることこそ重要と申せましょう。



徳川家康